

CASBEE京都-新築(2011年版)
京都大学(中阿達)教育研修施設

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.4
Q1 室内環境									3.4
1 音環境					3.6	0.15	2.7	1.00	3.5
1.1 騒音					3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0	1.00	
2 設備騒音対策									
1.2 遮音					4.1	-0.40	3.3	0.40	
1 開口部遮音性能				遮音性能T-2を確保している。	5.0	0.45	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				遮音性能のある間仕切壁を採用している。	4.0	0.23	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					2.0	0.16	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				L-55相当を確保している。 床:カーペット、天井:岩綿吸音板にて吸音。	4.0	0.16	3.0	0.20	
1.3 吸音					4.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境					2.9	0.35	2.0	1.00	2.8
2.1 室温制御					3.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温					3.0	0.53	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性									
3 外皮性能				外皮断熱:50mm、窓:low-e複層ガラス。	5.0	0.35	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性				全部屋個別空調にて対応している。	3.0	0.12			
5 温度・湿度制御									
6 個別制御									
7 時間外空調に対する配慮									
8 監視システム									
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境					3.9	0.25	3.1	1.00	3.8
3.1 昼光利用					4.6	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率				●自然 A(全国版準用) 大学部:2.5%以上、宿泊部:2.0%以上確保。	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口							5.0		
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容) ガラス格子状のルーバーを採用している。	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策					3.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア									
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容) ガラス格子状のルーバーを採用している。	3.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策									
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御					5.0	0.25	1.0	0.25	
				昼光センサ及び人感センサによる照明制御を採					
4 空気質環境					3.7	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策					4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆の材料を 床・壁・天井の70%以上に採	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策									
3 タニ・カビ等									
4 レジオネラ対策									
4.2 換気					3.0	0.30	3.3	0.38	
1 換気量					3.0	0.37	3.0	0.33	
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.27	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.37	3.0	0.33	
4 給気計画									
4.3 運用管理					4.2	0.20			
1 CO ₂ の監視					3.0	0.39			
2 喫煙の制御				全館禁煙の運用としている。	5.0	0.61			
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.2
1 機能性					2.9	0.40	2.9	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.5	0.60	
1 広さ・収納性				学生・教職員にゆとりのあるスペースを確保してOAフロアを敷設している。	3.0	-	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	4.0	0.50	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性					1.7	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点) 吹き抜けを設け空間の広がりを感じる計画として自動販売機を設けている。	3.0	0.39	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				●とも D(独自基準) 内装に地域木産材を使用している。	4.0	-			
3 内装計画					1.0	0.61	1.0	0.50	
1.3 維持管理					4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				外壁に光触媒塗料を採用している。	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3Fにメンテナンスバルコニーを設けている。	4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性					3.4	0.31			3.4
2.1 耐震・免震					3.8	0.48			
1 耐震性				安全係数を1.25倍としている。	4.0	0.80			
2 免震・制振性能					3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.33			
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				維持管理のしやすい材料を採用している。	3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23			

2.4 信頼性					汎用機器で構成している。	3.3	0.19	-	-	
1	空調・換気設備					4.8	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-	
3	電気設備					3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.6	0.29	2.6	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり						4.6	0.24	2.2	0.50	
1	階高のゆとり				階高を4.3mとしている。	5.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		簡易間仕切を採用し部屋の形状を変更できる。	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					積載荷重 大学部:2900N/m2、宿泊部1800N/m2	4.0	0.24	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性						3.0	0.52	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		マシンハッチ、搬入用バルコニーを設けている。	3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース					3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		敷地内に十分な緑化をしている。	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		格子状のルーバーを採用している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、自然	A'(全国版準用)			3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.9
1 建物の熱負荷抑制					外皮断熱:50mm、窓:複層ガラス。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用						4.0	0.20	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		トップライトを採用している。	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)		太陽光パネルを採用している。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化						4.3	0.30	-	-	4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					ERR=21.4%	4.3				
集合住宅の評価						4.0				
4 効率的運用						3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				集中管理リモコンにて運転監視。	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護						2.2	0.15	-	-	2.2
1.1	節水				擬音装置を採用している。	1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)			3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.8	0.63	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		高炉セメントを採用している。	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		地域木産材を使用している。	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		簡易間仕切を採用している。	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用				全ての材料をシックハウス規制対象外としてい	3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-	-	
1	消火剤					-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-	-	
3	冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮						3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)			3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制					3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減					-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制				十分駐車スペースを確保している。	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音					3.0	0.33	-	-	
2	振動					3.0	0.33	-	-	
3	悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2	風害、日照阻害の抑制					2.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制					3.0	0.62	-	-	
2	砂塵の抑制					1.0	0.16	-	-	
3	日照阻害の抑制					3.0	0.22	-	-	
3.3	光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				屋内:天井埋込型照明器具、屋外:サイン照明無	4.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)			3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる